

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL : 03-3519-5181 FAX : 03-3597-5171 メール : jaera-homepage@elv.or.jp

URL : <http://www.elv.or.jp/>

平成27年度共同出荷事業、実施決定

ELV機構では、資源循環に向けた取り組みとして、昨年度に引き続き、本年度も「貴金属類の共同出荷事業」を全国で実施することとなりました。

会員の皆様には、対象物品の回収にご協力をお願いいたします。

なお、本事業はELV機構会員の皆様を対象とした事業であり、会員でない方は参加できませんので、ご了承ください。

▼事業詳細 (※閲覧には会員専用ユーザー名・パスワードの入力が必要です)

<http://www.elv.or.jp/ss/index.php?itemid=734>

■対象物品 (昨年度と同様)

1. コンピューター基板
 - ・エンジンコンピューター基板
 - ・エアバッグコンピューター基板
 2. エアバッグカプラー
 3. センサー類
 - ・O2センサー
 - ・A/Fセンサー
- } 基板のみの状態

■集荷形式・集荷時期

巡回集荷 (連携業者が各事業所へ集荷に回る形) で年度内に2回 (10月・2月) 集荷予定。

■買取単価

各巡回集荷時期の直前に提示。

→ 10月集荷分 : 平成27年9月24~25日に提示

→ 2月集荷分 : 平成28年1月22日までに提示

※直前提示となった理由

現時点 (集荷時期から離れた時期) で買取単価を出すと、リスクを大きくみた数字 (低価格) になってしまうため。連携業者によれば、集荷時期に近ければ近いほど、よい数字が提示できるとのこと。

■出荷するか否かの判断

各巡回集荷時期の直前に買取単価が示されるので、それを確認して出荷するか否かを事業所が判断。

■幹事会社

幹事会社の設定なし。

→ 事前にELV機構で参加事業所を把握し、連携業者へ伝達。

その後は連携業者から各事業所へ直接連絡。

目次


| | |
|-----------------------------------|---------|
| 巻頭言 | 1 |
| トピックス | |
| 共同出荷事業 | 1 |
| 2014年度監査結果等にもとづくデータ発表 (自再協より情報提供) | 2 |
| 自動車リサイクルセミナー | 3 |
| ブロック長会議 | 4 |
| 近畿ブロック会議 | 4 |
| 東北ブロック会議 | 4 |
| 鉄スクラップ最新情報 | 5 |
| 行事予定・お知らせ | 6 |
| 編集後記 | 6 |

巻頭言

8月20日に東北大学で開催された『リサイクルビジネスの新展開を目指す自動車リサイクルに関する技術セミナー』に参加させていただきました。参加者は総勢70名以上で関心の高さを感じさせていただきました。冒頭のご挨拶で東北経済産業局環境・リサイクル課長 中井孝明様からいただいた言葉の中で「マテリアルリサイクルからものづくりへ」とありました。今回のセミナーで、私たち自動車解体業者と中間処理業者様、精錬会社様との顔合わせの場が東北大学教授 中村崇様にお声掛けいただき実現いたしました。「連携」のキーワードで新たなビジネスモデルが東北発で出来ればと感じました。




(広報部会 平地 健)

2014年度 監査結果等にもとづくデータ発表




自動車再資源化協力機構より、ELV機構への情報提供として、2014年度の監査結果等にもとづくデータをいただきましたので、下表のとおり発表します。(※  マーク: 発生事業所率が低いベスト3)

ELV機構加盟・非加盟で数値を比較してみると、非加盟に比べて加盟の事業所の方が数が少ないため発生事業所率は高くなっていますが、「フロン期限切れボンベ」及び「エアバッグ引取基準未合致品」ともにそれ自体の発生率は、ELV機構加盟の方が非加盟より半分以上低い数値となっています。

フロン期限切れボンベの発生割合

| ブロック | 発生事業所率 (発生事業所数/所属事業所数) | 期限切れボンベ発生率 (期限切れ本数/引取本数) |
|--|---------------------------|-----------------------------|
| 北海道 | 26.0% | 1.4% |
| 東北 | 38.0% | 2.3% |
| 関東 | 32.0% | 1.1% |
|  中部・北陸 | 21.0% | 1.4% |
| 近畿 | 28.0% | 1.3% |
| 中国・四国 | 31.0% | 1.2% |
|  九州 | 23.0% | 1.1% |
|  沖縄 | 6.0% | 0.9% |
| ELV機構加盟 | 30.0% | 1.3% |
| ELV機構非加盟 | 25.0% | 4.0% |
| 全 国 | 26.0% | 2.7% |

エアバッグ引取基準未合致品の発生割合

| ブロック | 発生事業所率 (発生事業所数/所属事業所数) | 未合致品の発生率 (未合致品個数/実回収個数) |
|--|---------------------------|----------------------------|
|  北海道 | 1.0% | 0.005% |
|  東北 | 10.0% | 0.2% |
|  関東 | 16.0% | 0.4% |
| 中部・北陸 | 45.0% | 2.0% |
| 近畿 | 40.0% | 0.8% |
| 中国・四国 | 30.0% | 0.3% |
| 九州 | 28.0% | 0.2% |
| 沖縄 | 33.0% | 1.7% |
| ELV機構加盟全体 | 22.0% | 0.5% |
| ELV機構非加盟 | 21.0% | 1.2% |
| 全 国 | 21.0% | 1.0% |

自動車リサイクルに関する技術セミナー、開催終了



8月20日に東北大学・東北発素材技術先導プロジェクト 希少元素高効率抽出技術拠点主催の「リサイクルビジネスの新展開を目指す自動車リサイクルに関する技術セミナー」が宮城県仙台市、東北大学片平キャンパス内で開催されました。このセミナーはE-Scrapリサイクル、すなわち使用済自動車から取り出される廃電子基板等に含まれる貴金属やレアメタル等のリサイクル技術を様々な方面から見て、検証してみようということが狙いのひとつとなっています。セミナーは講演と設備見学の2部構成で行われました。

第1部の講演では、ELV機構の木内総務部会長より、「自動車リサイクルに関する取り組み 自動車に含まれる貴金属等のリサイクル」という演題で現在ELV機構が取り組んでいる資源循環に向けた取り組みの内容を紹介しました。続いて、岩手県で中間処理業者としてE-Scrapの回収やそこからの貴金属の再生などを行っているニッコー・ファインメック株式会社 代表取締役社長の小野寺真澄氏より、「ELVからのE-Scrap回収に関するリサイクラーからの提案」という演題で発表がありました。主に、リサイクラーの立場からみた現状の自動車関連E-Scrapリサイクルにおける問題点についての解説、それらの課題に対する提案が行われました。中でも基板の取り外しに掛かる時間、人件費、輸送費は重要な課題として挙げられています。(✓)

例えば、エンジンコンピューターを1トン処理するとしたら、作業員が基板取り出しに要する時間は47時間13分、一方、基板を取り出さずにそのまま破碎選別した場合は2時間32分で済みます。それにより、人件費が削減されるだけでなく、品位も安定し、総合的な評価額としては23%アップするという結果が導き出されたということです。続いて、銅製錬を主に行っている小名浜製錬株式会社 生産部長・技術部長の善英喜氏より、「小名浜製錬所におけるリサイクル事業」といった演題で事業内容の説明がなされ、また、東日本大震災での被害と復興するまでの容易ではない道のりについて、話がありました。最後は、東北大学 教授の中村崇氏より「E-Scrapリサイクルに関する次世代技術の紹介」という演題で発表があり、自動車からのE-Scrap回収の現状やヨーロッパの動向に加え、最先端の抽出技術の紹介といった興味深い内容に、来場者は熱心に耳を傾けていました。意見交換の場でも活発な質疑応答がなされ、関心の高さがうかがわれました。

第2部の設備見学では、電子基板の電子パルス破碎や分離したレアメタルを目的別に選別するLIBSソーティング装置の実演を見学し、分析や解析を目的とした設備、高速ラマンイメージングシステムやフロー式粒子像分析装置などの説明もありました。なお、これらの分析装置は一般の方々も利用可能であるとのこと。E-Scrapリサイクルの最先端の技術ならびに研究設備を見学し、参加者は今後のE-Scrapリサイクルの将来性に期待を寄せていました。



(写真左上から) 1・2枚目: セミナーの様子、3枚目: 発表中の木内総務部会長の様子、4枚目: 設備見学の様子

第2回ブロック長会議にてグループ討論を実施

《討論テーマ》

1. ブロック長の役割は何ですか？
2. 地域団体・ブロックの活性化のために何が必要ですか？
また、何故それが必要だと思いましたか？



Aグループ

| | | |
|---|------------|----------------|
| 1 | 北海道ブロック長 | 石上 剛 (グループ長) |
| 2 | 中国・四国ブロック長 | 古谷 一夫 (発表者) |
| 3 | 九州ブロック長 | 伊地知 志郎 |
| 4 | 沖縄ブロック長 | 松田 和生 |
| 5 | 総務部会長 | 木内 雅之 (オブザーバー) |

Bグループ

| | | |
|---|------------|-----------------|
| 1 | 近畿ブロック長 | 高野 和憲 (グループ長) |
| 2 | 関東ブロック長 | 三枝 透 (発表者) |
| 3 | 中部・北陸ブロック長 | 金森 幸元 |
| 4 | 東北ブロック長 | 平地 健 (ブロック長会議長) |
| 5 | 副代表理事 | 酒井 康雄 (オブザーバー) |

8月26日、ELV機構会議室(東京都港区)にて、「平成27年度 第2回 ブロック長会議」が開催されました。当日は、全国8ブロックからブロック長全員が参加され、役員や事務局も含め、総勢13名の出席となりました。

今回は、各種報告のほかに、初の試みとして、“グループ討論”が行われました。ブロック長はAとBの2つのグループに分かれ、各グループにオブザーバーとして1名ずつ役員が入りました。

両グループとも約30分の白熱した討論の末に発表が行われ、テーマ1のブロック長の役割としては、〈本部と各地域の会員をつなぐ仲立ち〉〈地域の旗振り役〉などの意見が出されました。また、テーマ2の地域活性化のための方策としては、〈新年会など会員が楽しく交流できるような活動の継続〉〈ビラ配りなど他の地域の取り組み拡大〉といった意見が発表されました。

発表後の意見交換では、「ブロック長として、各地域団体の代表者などと気軽に話ができる関係づくりができているか」といった意見もあり、参加者全員がブロック長の役割を見つめ直すきっかけとなった有意義な会議でした。

近畿ブロック会議、開催



7月30日、エルおおさか(大阪府大阪市)にて、「近畿ブロック会議」が開催されました。本部からは、吉川副代表理事、事務局三浦が出席しました。また、来賓として、近畿経済産業局や近畿地方環境事務所の方々をお招きし、出席者は総勢20名ほどになりました。

当日は、定期社員総会で配布した資料集をもとに本部活動報告が行われ、定期社員総会や自動車リサイクル士制度・共同出荷事業などの各種事業に関して説明がありました。報告後の意見交換では、「本部とブロックとのコミュニケーションをもっと密にしていく必要がある。お互いに情報を把握したうえで、本部は本部、ブロックはブロックの役割をしっかりと果たしていかなければならない」といった意見があり、意識共有の重要性が訴えられました。

東北ブロック会議、開催



8月20日、東北大学片平キャンパス片平北門会館(宮城県仙台市)にて、「平成27年度 第2回 東北ブロック会議」を開催しました。本部より河村代表理事、酒井副代表理事、木内総務部会長、奥野事務局長を招き、総勢14名の出席となりました。

まず、近況報告として各県共通している入庫台数の減少や仕入れ金額と収益とのアンバランスに頭を悩ませている状況の報告の後、本部活動報告があり、特に、自動車リサイクル士制度については、その方向性やあり方などに関する具体的な意見交換がなされ、東北ブロックからは、より良い制度の早期確立を強く望む意見がありました。また、共同出荷事業への参加要請に対しても、東北ブロックとして積極的に参加することを約束しました。

■ 8月第4週(24日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供 / 日刊市況通信社]

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



8月24日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

| | | H2 | 気配 |
|-----|-----|-----------------|--------|
| 関東 | 北関東 | 22,000 ~ 23,000 | 様子見 |
| | 南関東 | 22,000 ~ 23,000 | 様子見 |
| 名古屋 | | 21,500 ~ 22,000 | 弱含み様子見 |
| 関西 | 大阪 | 22,500 ~ 23,500 | 弱含み様子見 |
| | 姫路 | 22,000 ~ 22,500 | 弱含み様子見 |

国内「品不足感」あり下げ足鈍る 東京製鉄が21日、2拠点で値下げ

国内鉄スクラップ市況は、東京製鉄が21日、田原工場と高松鉄鋼センターの購入価格を1トあたり500円値下げし、中部電炉の値下げも広がったことから、軟調な推移を続けている。しかし、2カ月にわたって下落基調が続いたことで市中の集荷意欲が低下し、「品不足感」が広がっていることから、国内相場の下げ足は鈍っている。

東京製鉄が21日から値下げしたのは、同社の全拠点で最高値にある田原工場と製鋼設備のない高松鉄鋼センターのみ。九州、岡山、宇都宮の特級購入価格は各拠点とも22,000円で横並びの状況だ。田原工場が22,500円と高値にあるが、全拠点を含めて今後、追加値下げが可能かどうかは不透明な状況にある。海外や輸出市場から見ると国内相場は高値にあるが、関東では「品不足」から安値修正値上げが見られたように、電炉筋は夏季減産下ながら、国内需給は緩んでいないためだ。

9月はシルバーウィーク連休もあり、同期間中の生産に向けて電炉筋は鉄スクラップ在庫の確保も必要。引き合いを緩められない環境にある。ただし、海外・輸出市場をはじめ鉄鉱石や鋼材価格の動向など弱気材料も多い。

【関東地区】電炉筋の上げ下げ交錯するも中心値の範囲内の動き

関東電炉の価格対応は、上げ下げが交錯している。市中スクラップの荷動きに勢いがいいことから、電炉筋はそれぞれの入荷状況に応じた対応を行っているためだ。それでも電炉各社の対応は、値上げの場合も値下げの場合も関東相場の中心値(H2・22,000~3,000円)の範囲内と、小幅な動きにとどまっている。こうした状況は湾岸商社・シッパー筋も同じ。H2浜値の中心値は22,000~2,500円。船送りがある筋は高値寄りを維持している。

【東海地区】電炉メーカー5社がさらに500円下げて8月下旬入り

名古屋電炉は8月21日の週末にかけてさらに500円がたの追加値下げが広がっている。東京製鉄は21日から田原工場の購入価格を一律500円値下げ。田原の陸海上特級は22,500円。21日から域内メーカー5社が500円値下げ。H2炉前実勢価格は21,500~2,000円中心。さらに輸出の引き合い価格も韓国筋はH2・FOB21,500円どころを譲る気配にない(商社)ことなどもあり、少なくとも月内は弱含みの市況展開が続くものと見られている。

【関西地区】依然として高値解消不安が根強い展開に

大阪地区の鉄スクラップ市況は、依然として高値解消不安が根強い展開となっている。電炉入荷は通常通りの水準にまで回復していない動きも伝えられるが、それでも週明けからは2社が炉休入り、さらには9月も当初期待したほど生産量が伸びにくい中で、各社、相応の在庫量は維持しており、先行き警戒への見方を拭い切れない。H2炉前実勢価格は22,500~3,500円。姫路地区のH2炉前実勢価格は22,000~2,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月24日午前時点のもの)

行事予定

9月の主な予定

9月 1日(火)

- ・ JIS開発事業 関連打ち合わせ

9月 2日(水)

- ・ 第4回 リサイクル技術部会

9月 4日(金)

- ・ 中部・北陸ブロック会議

9月 8日(火)

- ・ 第2回 三役会

9月11日(金)

- ・ JIS開発事業 関連打ち合わせ

9月14日(月)

- ・ 産構審・中環審 第43回 合同会議

9月15日(火)

- ・ 第6回 広報部会

9月16日(水)

- ・ 第2回 資源循環委員会

9月19日(土)

- ・ 九州ブロック会議

9月28日(月)

- ・ JIS開発事業
第1回 原案作成委員会



お知らせ

■会員数(2015年8月時点)

総数 598社 / 会員 572社、賛助会員 26社

■自動車リサイクル士合格実績(2015年8月時点)

| 資格の種類 | 平成 25年度 | 平成 26年度 |
|--------------------------------------|------------|------------|
| 自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程) | 4名 | 37名 |
| 自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破砕工程) | 15名 | 59名 |
| 自動車リサイクル管理士 | 626名 | 194名 |

■ホームページに関するお知らせ

ELV機構のホームページでは、本部の活動報告を毎週掲載しています。ぜひ確認してみてください。

★ELV機構ホームページ <http://www.elv.or.jp/>



ページ左側メニューの下のこのバナーをクリック!

編集後記

お盆を過ぎたあたりから、いくぶん心持ち涼しさが戻ってきたような気がします。それにしても今年は台風が多いですね。自然災害は避けることは出来ないにしても、災害に対する備えはしっかりとっておきたいものです。▲今月号では2ページ目に2014年度の「フロン期限切れボンベの発生割合」及び「エアバッグ引取基準未合致品の発生割合」のデータを掲載しました。この資料は自動車再資源化協力機構様のご協力で初めて掲載する事が出来ました。さらに詳しいデータを地域団体長宛てに報告致しましたので、この機会に是非、地域団体の安全作業、コンプライアンスの意識向上に役立てて頂ければと思います。▲8月20日に東北大学で自動車リサイクルに関する技術セミナーと見学会が行われました。見学会で拝見した設備は最先端を行く素晴らしいものでしたが、現状では設備も高価であり、実用にはまだ時間が掛かるように思われました。しかし技術は日進月歩。産学官がスクラムを組み、粘り強く技術開発を進めてゆけば、やがて高度なりサイクル技術も実用化される日がやって来るに間違いありません。

(広報部会 部会長 永田 則男)